

私を変えた震災体験

池月小6年 須貝 悠香



とを忘れませぬ。

震災後、電気がつながらなくなり、数日過ぎた日、お父さんから、

「お前の友達が津波にのみ込まれた。」

という連絡をもらいました。その友達は、沿岸部に住んでいて私のスキー仲間でした。ニュースや新聞で津波の様子を知っていたので、とてもショックでした。

幸い二人の友達は、津波から逃げて助かったことを後から知りました。でも、もう一人の友達は、残念なことに亡くなってしまいました。その子は、私がスキーを教えてあげた子なので、弟のようにかわいがっていました。だから、自分の弟が突然、いなくなったような気持ちになりました。泣いて、泣いて、毎日のように泣いて過ごしました。人の命を簡単にうばってしまふ津波がとてむくかかったこ

きつと、沿岸部の方々は、私以上に、私の悲しみとは比べものにならないくらいショックだったと思います。あまりにも突然のことだったので…。だから、私は、沿岸部の方々の悲しい気持ちに手が取るようにわかりません。

今、いじめが話題になっています。人の命をどのように考えているのでしょうか。人の命をわけもなく勝手にうばうことはできないはずです。私は、震災で人の命の尊さを知りました。命は、たぐさんの人の思いでつながり、生かされているということ…。もっともっとみんなで自分の命、自分の回りにあるたぐさんの命を大切にすべきだと思います。

私は、たぐさんの方の命を引き継いだのだと思います。その方々の分まで、精いっぱい生きていこうと思っています。これまで、私は、(自分なんかどうなってもいいや。)と開き直って生活してきたこともありました。これからは、自分の命に責任を持って生きていきたいと思えます。